

■(曲亭)滝沢馬琴
たきざわばきん
明和事件・・・1767＝

戯作者。師山東京伝踏み越え、「椿説弓張月」で不動の地位、失明の中、執念で「南総里見八犬伝」完成。
江戸深川海辺橋東の松平屋敷内長屋で、旗本松平信成の用人を務める滝沢運兵衛興義の五男に生まれる。

田沼意次老中1772＝ 5歳：

黄表紙始・・・1775＝ 8歳：父が大吐血して死に、長兄が家督をついだが、故あって浪人し、
雨月物語刊・1776＝ 9歳：馬琴が主家嫡孫八十五郎の相手として召され、滝沢の家督を継いだ。その後母妹らは長兄の宿所に移り、馬琴はひとり主家に起居し、幼主の呵責に耐えるという少年時代を過ごし、

・・・・・・・1780＝13歳：ついに“木がらしに思ひたちけり神の旅”の一句を障子に書きつけて松平屋敷を出奔。
以後、長兄、仲兄らの勤める戸田家徒士等の卑職を嫌って、生活の自立をめざす流寓時代がつづく。

蝦夷初調査・1785＝18歳：母死去。
田沼意次失脚1786＝19歳：四兄死去。
幼時より読書を好み、独学ながら漢籍、和書、俳書の類を読みふけり、かたわら浄瑠璃本、戯作書をも愛好した。一時、医師として立つことを考えて従学したが挫折。

異学の禁・・・1790＝23歳：山東京伝を訪ねて入門を請い、その温情に接したことが彼の文学者(戯作者)としての道をひらいた。
混浴禁止・・・1791＝24歳：深川永代寺で行われた京の壬生狂言の大評判に取材した黄表紙「廿日余四十両 尽用而二分狂言」を豊国の絵、“京伝門人大栄山人”の署名で、和泉屋より刊行。これが処女作である。以後、京伝の食客、売卜師などをしながら黄表紙を執筆、一時は京伝の紹介で書肆葛屋重三郎の番頭もつとめた。

松平定信引退1793＝26歳：飯田町中坂の履物商伊勢屋の寡婦、会田氏お百に入夫し、生活の基盤を作るとともに戯作に専念する態勢をととのえ、

オランダ正月・ 1794＝27歳：長女誕生。
ブートン来航・ 1796＝29歳：曲亭馬琴の戯号のもとに、「高尾船字文」を書いた。
昌平饗始・・・1797＝30歳：長男誕生。
古事記伝・・・1798＝31歳：長兄死去。

この間、伊豆や京阪に旅行。

アキラ船来航始1803＝36歳：「俳諧歳時記」刊行。
イザナ来航・ 1804＝37歳：「小説比翼文」「曲亭伝奇花鏡児」刊行。
＊大坂本屋の依頼で書いた「復讐 月氷奇縁」(流光斎如圭画)は、生れついでに俠気と正義感や道徳思想、伝奇幻想趣味や中国白話小説、和漢故事等の該博な知識、うむことを知らぬ考証癖等が結びつき、時の小説界に新機軸をひらき、文名が一気にあがり、以後、陸続として、

青洲麻酔手術1805＝38歳：「復讐奇談 稚枝鳩」(豊国画)、「繡像復讐 石言遺響」(北馬画)、「四天王剽盗異録」(豊広画)と書きはじめ、「稚枝鳩」は大阪で新浄瑠璃として上演される。以後の作品の量産ぶりは驚異的で、いずれもがヒットして、江戸文壇の王者の道を歩みはじめ、私生活では、文名を慕って集まる人々を避け、また大身武家、豪商らの客をも謝して会わず、長男宗伯(琴嶺)の医業修得を助けつつ、ひたすらに執筆にあけくれるなどして、恩人京伝との仲も疎遠になり、名声ゆえの孤立感をかみしめる。やがて画工葛飾北斎とのコンビにより、

ロシヤ船狼藉・ 1807＝40歳：「墨田川梅柳新書」「新果解脱物語」「椿説弓張月」前編刊行。
フェートン号事件 1808＝41歳：「三七全伝南柯夢」他、読本10点刊行。
ゴロブニ拿捕 1811＝42歳：「椿説弓張月」完了。
高田屋拿捕・ 1812＝45歳：＊「占夢南柯後記」等の傑作がつぎつぎに上梓され、彼の地位を不動のものとした。
黒住教・・・ 1814＝47歳：名作「南総里見八犬伝」の執筆、刊行が始まる。
・・・・・・・ 1815＝48歳：「朝夷巡嶋記」初編刊行。
水野忠成老中1818＝51歳：

伊能図完成・ 1821＝54歳：

シボク来日・ 1823＝56歳：長男、妻が大病。

一方彼のあくなき知的探究心は、天象、歴史、博物についての考証でも、「燕石雜志」「玄同放言」などの独自で宇宙論的な成果をあげるかたわら、屋代輪池、山崎美成らと耽奇会を起こし、奇物・名物を論じあうという一面もあった

シボク迫放・ 1829＝62歳：「近世説美少年録」を書き始める。
富籤流行・・・ 1830＝63歳：

鼠小僧磔・・・1832＝65歳：「開巻驚奇俠客伝」を書き始める。
天保大飢饉始1833＝66歳：長年の刻苦努力により、右眼が見えなくなる。

滑稽+人情本 1835＝68歳：長男宗伯に先立たれる不幸にみまわれるが、孫の太郎の成長と小説へのひたすらな情熱によって打撃を克服し、書き続ける。小説稗史の方法論についても独自の見解をもち、稗史七法をととなえ、木村黙老、殿村篠斎らの知己と、自作を中心に、注釈ではない文学評論の必要を論じている。

大塩平八郎乱1837＝71歳：作家として致命的な両眼失明に至るも、文学にくらい宗伯未亡人お路を筆記者として、苦勞しながら口述で著作を続け、

天保改革始・ 1841＝74歳：妻が没する。
天保改革弾圧1842＝75歳：＊28年の歳月を経て「南総里見八犬伝」が完成。

阿部正弘首座1845＝78歳：「新局玉石童子訓」刊行。

・・・・・・・ 1848＝81歳：＊「開巻驚奇俠客伝」、「近世説美少年録」の二大作の完結を見ずに、没した。

新潮古典文学アルバム、「日本史を変えた人物200人」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、歴史有名人の死の瞬間、日本の古典名著、